

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	教育基本法・学校教育法に基づいて、生徒一人一人の能力を最大限に啓発し、民主的で、文化的、国際的な社会の発展に貢献できる実践力のある産業人の育成に努め、特に次の目標の実現を図る (1) 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立する (2) 正しい職業観を育成するとともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成する (3) 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導をする (4) 生涯にわたって、創意をはたらかせ、進歩向上を図るための基礎的能力を育成する	
2 評価する領域・分野	◇教務部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「家庭学習の習慣が身に付いている」かどうかは「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答し保護者及び生徒は59%にとどまっている。定期考査前の学習時間を調べると年々増加傾向にあり、意識して取り組む生徒も増えているが、家庭学習が習慣化されていないのが現状である。 ・コロナ禍の中で、試行錯誤しながらオンライン授業に取り組んだが、保護者及び生徒からは98%の理解を得られたことは非常に良かった。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇主体的に活動する生徒の育成 生徒参加型授業とICT機器を活用した授業の研究	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教科会や科目担当で授業研究に努める。 ・教務部、生徒指導部、商業部の連携を図る。 ・ICT機器利用の職員研修実施を実施する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒の実態把握と分析。 生徒に対し授業アンケートをとるとともに、定期考査前に家庭学習調査を実施。 (2) すべての教員が生徒参加型の授業やICT機器を利用した研究授業を実施。 (3) 授業参観による授業改善。 (4) 研究授業実施後、授業アンケートを実施し検証。	(1) 普段の授業に対する生徒の意識を把握するとともに、家庭での学習時間を確認する。 (2) 生徒参加型の授業を意識した授業や、ICT機器を利用した研究授業を実施する。 (3) 参観者が感想を授業者に伝える。 (4) 授業アンケートの結果について検証するとともに、各教科会で交流する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・年4回の定期考査前2週間の家庭学習調査を実施した。結果を受けて、課題提出や課題の確認作業の見直しを図った。 ・11月9日～13日に授業研究週間を設け、全教員が生徒参加型の授業やICT機器を利用した研究授業を実施した。また、期間中、他の教員の授業を参観した。 ・授業後の生徒に対するアンケートの結果をもとに、教科ごとの取組や改善についてまとめ反省職員会議で報告した。	①実態把握後、課題提出や課題の確認作業の改善ができたか。 ②生徒参加型を意識した授業やICT機器を活用した研究授業を実施し参観記録を受け取る。 ③授業の振り返りを行った。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○生徒の家庭学習に対する実態調査では、定期考査前や検定試験前には着実に学習時間が増えている。しかし、家庭学習は習慣化されていないのが実情であるので、教師側から、課題の質や量を検討し働きかけをする必要がある。 ○ICT機器を活用した授業研究を実施することにより、多くの先生が普段からICT機器を活用するようになってきた。今後、生徒が主体的に授業に臨み、理解度を高めるために、生徒用タブレットを効果的に活用する術を研究する必要がある。 ▲本校の学習が生徒にとって魅力的であり、将来の目標達成に対して効果的な実践を行っていることを地域や中学生に紹介していきたい。	
12	来年度に向けての改善方策案 ・生徒用タブレットの利用方法について、職員研修や研究（公開）授業を実施し、すべての教員がICT機器を活用した授業ができるようにしたい。また、生徒が主体的に学習する姿勢を育むとともに、理解度が上がるよう授業研究に取り組んでいきたい。 ・中学生に対し、本校の実践内容や魅力を効果的に発信するための体験入学や高校見学会にしたい。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月16日

【意見・要望・評価等】

- コロナ感染症は校内で感染があったわけではないが、今までどおり予防対策を実施してほしい。
- コロナ禍で学校行事や大会が中止されてしまったのは大変残念であった。来年度に向けて思い出に残るものを、感染症防止対策を講じながら計画できるとよい。
- 12月の「シクラメン販売」で各地の物産販売を開催した際に、会場で丁寧に接客、販売する生徒の姿が見られてよかった。今回の機会だけでなく学校の広報を充実させることを期待したい。
- アンケートでは、生徒は「入学できて良かった」、保護者は「喜んで登校している」の割合が高い。生徒が学校生活を送る上でやりがいのある高校と認識している。身だしなみや規律・規範の必要性を生徒に理解させて、指導に力を入れていることは、今後も継続してほしい。
- 知人に土岐商業高校のOBがいて、当時の話と聞き比べると、現在は時代に合った高度な資格取得や即戦力を身に付けられており、さらに良い学校になっていると思う。
- オンライン授業での配信については、授業内容が生徒によく理解されており、今後さらに魅力ある授業を期待したい。
- 商業高校として社会・地域とのつながりをさらに意識した取組を期待したい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	教育基本法・学校教育法に基づいて、生徒一人一人の能力を最大限に啓発し、民主的で、文化的、国際的な社会の発展に貢献できる実践力のある産業人の育成に努め、特に次の目標の実現を図る (1) 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立する (2) 正しい職業観を育成するとともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成する (3) 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導をする (4) 生涯にわたって、創意をはたらかせ、進歩向上を図るための基礎的能力を育成する	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・商業の専門高校生としての身だしなみ・マナー指導・規範意識を身に付けさせる指導が生徒及び保護者に理解されている。 ・交通事故防止、不審者対策、情報モラル教育、いじめ対策に対して現状理解と情報の共有に努め、生徒が安心安全に生活できるように関係諸機関との連携を図る。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒の規範意識の高揚と問題行動の未然防止。 ・教育相談の充実とアンケートや調査などをもとに全職員による生徒理解の深化。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・あらゆる場面でモラルやビジネスマナーについて呼びかけ、生徒同士の働きかけによって問題意識を深める。 ・教育相談担当者会議（教育相談係・学年教育相談担当者・生徒指導主事・養護教諭）を週1回実施し、情報収集と共有に努め、早期対応できるようにしている。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 隔月1回の身だしなみ指導。毎朝、校門、昇降口で実施されている挨拶・遅刻指導。 (2) 集会指導や生徒会役員と職員による通学路での交通安全指導。MSリーダーズによる土岐商交通安全強化月間。職員による登校坂下での下校指導。 (3) 年2回のハイパーQU、教育相談研修会の充実、年3回の教育相談アンケートの実施と部活動でのいじめ調査を実施。毎月の心のアンケートの実施。	(1) 身だしなみを自ら意識できる生徒が昨年より増加してきた。不注意による遅刻者数は昨年より若干減少傾向。 (2) 交通事故件数は若干減少しているが、登下校マナーに対する苦情は昨年度並み。 (3) アンケート調査の中からクラス、部活動内のいじめを発見し、担任と部顧問と連携しながら情報収集し組織的に指導する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・全校一斉または学年による身だしなみ指導。生徒指導部と学年団による再指導。 ・生徒会、交通安全委員、MSリーダーズ、全職員による交通安全指導の実施。 ・年2回のハイパーQU、年3回の教育相談アンケートの実施と部活動でのいじめ調査を実施。	①身だしなみ再指導者数、遅刻者数。 ②交通事故若干の減少、昨年並みの交通マナーに対する苦情。 ③いじめ認知件数の減少。調査結果からの早期対応。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○校内外での身だしなみ・挨拶をビジネスマナーの一貫として徹底させる。 ○各種アンケートやハイパーQUなどの調査だけに頼らず、毎週実施される教育相談担当者会議の学年からの報告等から生徒の変化を早期発見し、早期対応している。 ▲交通事故件数は若干減少しているが、自損事故がまだ多い。登下校時の交通マナーを徹底させたい。	
12 来年度に向けての改善方策案		
・身だしなみを自ら意識できる生徒が増加し、昨年度より少しずつ再指導者の人数が減少してきたのでより多くの生徒に自覚を持たせ自ら律する態度を育てていきたい。 ・商業の専門高校生として常にビジネスマナーを心がけて行動できるようにモラル教育・マナー教育を充実させていきたい。 ・制服のジェンダーレス化対応や校則の見直しを毎年進めているので、時代の変化に対応し、生徒や保護者の意見を取り入れながら進めていきたい。		

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立土岐商業高等学校 学校番号 48

I 自己評価

1 学校教育目標	教育基本法・学校教育法に基づいて、生徒一人一人の能力を最大限に啓発し、民主的で、文化的、国際的な社会の発展に貢献できる実践力のある産業人の育成に努め、特に次の目標の実現を図る (1) 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立する (2) 正しい職業観を育成するとともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成する (3) 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導をする (4) 生涯にわたって、創意をはたらかせ、進歩向上を図るための基礎的能力を育成する		
2 評価する領域・分野	◇進路指導		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「本校では、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」「本校では、生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」という項目において、「あてはまる」とする回答が生徒でそれぞれ82%、79%となった。保護者にも概ね満足していただけた。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・望ましい勤労観・職業観を育成する。 ・将来の夢や希望の実現に向けて主体的な進路選択ができるよう情報提供に努め、ガイダンスの機能を充実する。 ・希望する進路を実現できるよう確かな学力や専門的な知識・技能を身に付けるための指導を充実する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・全職員…3年生に対する個人面接指導を担当 ・各学年と連携…ガイダンス、面接指導やキャリア・パスポートを実施 ・教務部と連携…外部模試の実施と活用		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) ガイダンス、講演、講話の実施 (2) 外部模試、小テスト、コラム書き写し、時事問題研究の継続実施。	(1) 生徒および担当教員からの感想。 (2) 試験結果、提出状況、参加継続の状況。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・学年に応じたガイダンスや説明会、講演の実施。 ・外部模試、適性検査は昨年のデータと比較して学年の傾向を把握した。小テスト、コラム書き写しは週1回計画的に行い、定着している。	①「勤労観・職業観」育成に向けた機会となったか。 ②将来の夢を思い描けたか。社会人として身に付けるべきことを理解できたか。 ③基礎学力が身に付いたか。時事問題に興味を持てたか。継続的な取り組みにつながったか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課題	○国立大学に2名合格した。多くの職員の協力を得ながら、受験指導ができた。 ○コロナ禍の影響はあったが、外部の力を活用して、将来設計や仕事に関する講話を適切な時期に実施し、興味深く聞かせることができた。社会で活躍するために高校生活で身に付ける力を理解し、具体的な目標を考えることができた。 ○時事問題研究、コラム書き写し、小テストは年間を通して継続実施できた。担任の協力も得られ、意義が理解されている。 ▲就職試験について、県外企業の不合格者が目立った。面接対策等をより充実させる必要がある。 ▲看護、公務員希望者に対する説明会や補習は計画的に実施できたが、合格につなげることが難しかった。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・土岐商WEP（インターンシップ）を実施し、働くことや仕事について考え、社会で求められる力や態度を認識させる。 ・主体的に進路を選択する力を付けるため、講演や講話を効果的に開催し、考える機会を増やす。 ・各中学校から持ち上がってくるキャリア・パスポートについて、他の分掌とともに検討を進めたい。			

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	教育基本法・学校教育法に基づいて、生徒一人一人の能力を最大限に啓発し、民主的で、文化的、国際的な社会の発展に貢献できる実践力のある産業人の育成に努め、特に次の目標の実現を図る (1) 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立する (2) 正しい職業観を育成するとともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成する (3) 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導をする (4) 生涯にわたって、創意をはたかせ、進歩向上を図るための基礎的能力を育成する	
2 評価する領域・分野	◇商業部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	商業に関係する生徒及び保護者の評価「あてあまる」の結果 () 内は昨年度欠課 ・できるだけ選択授業や少人数授業又はオンライン授業を行い、生徒の理解を高めようと努力している。 生徒 52%(80%) 保護者 70%(72%) ・ふるさとを大切に、ふるさとに貢献できる人材の育成が積極的に行われている。 生徒 62% 保護者 49% ・地域との交流、連携などの活動を積極的に推進している。 生徒 62%(82%) 保護者 53%(65%) ・授業や家庭学習への指導・支援等をとおして一人一人の能力に応じた指導を行っている。 生徒 65%(88%) 保護者 59%(77%) ・外部講師の講演や様々な体験活動等の授業以外の学習機会及び学校行事の有無、又はその実施方法について、生徒の安全を最優先とし、新型コロナウイルス感染症対策を講じて適切に計画している。 生徒 65%(88%) 保護者 59%(77%) ・高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせるための指導を行っている。 生徒 90%(97%) 保護者 87%(96%) ・専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い。 生徒 85%(96%) ・課題研究(3年生で履修)の内容は自分にとって有意義である。 生徒 41%(92%) 質問内容に変更があったこと、学校行事が軒並み中止になったことを勘案しても、上記の結果より、概ね取り組みに対する理解が得られていると思われる。(各項目で「わからない」の回答が増えた)	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「質実剛健・明朗闊達」の校訓のもと、誠実、勤勉で豊かな人間性を育成するために、授業や検定取得、地域連携など、さまざまな取り組みを通して生徒一人一人に達成感や充実感を与えるとともに、望ましい勤労観・職業観を育成する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・商業部を中心としたコース別組織	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)各コースが目標とする全商検定取得率80%の達成と高度な検定試験取得者の増加 (2)土岐商ショップ、地域情報提供サイト「TiS」の運営並びに、商品開発、企画提案等による産学官連携の推進	(1)具体的な達成目標を立て、取得率から評価 (2)地域との連携状況から評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・各コースで目標とする検定試験合格に向けての取り組み ・土岐商ショップの出店、地域情報提供サイトの運営並びに、商品開発や企画提案等	①検定取得状況 ②地域との連携状況	A (B) C D A (B) C D

<p>11 成果・課題</p>	<p>○「全商検定3種目以上1級合格者100名！」を目標にここ数年取り組んできた。まだ2つの検定試験を残してはいるが、今年度の卒業生における全商3種目以上1級合格者は88名であり、昨年度最終の74名を既に超過している。年度当初は検定試験実施の有無も定かでない状況の中、リモートによる不慣れな授業でスタートしたことから見ると、かなり今年の3年生は頑張ったと言える。</p> <p>今年度卒業生 各コースの目標とする全商検定1級取得率は以下の通りである。(簿記検定終了時点)</p> <p>簿記 会計コース 45.5% 商経 マーケティングコース 57.4% 情処 ビジネス情報科 ビ情部門 38.5% プログラミング部門 33.3% 英語 コミュニケーションコース 37.8%</p> <p>今年度は施行中止や、時期を遅らせてC B T方式に変更した高度資格検定が多く、全学年において現時点では日商簿記検定2級4名、実用英検2級2名、I Tパスポート3名合格のみとなっている。</p> <p>▲課題は年々難度が増す試験内容に対応できる指導者の育成が第一であり、今年も若い先生を中心に講習会等を受講した。また、それぞれの試験でC B T方式への移行を進めており、試験内容と実施方法についての情報収集も必要である。</p> <p>○地域のイベントにおける土岐商ショップ等の活動</p> <p>土岐商工会議所をはじめとして地域の方々の協力を得て、地域の様々なイベントに土岐商ショップを出店し、物品の販売を行っている。J Rさわやかウォーキングやセラトピア土岐納涼夏祭りなど年5回程度地域のイベントに例年なら出店している。今年は軒並みイベント自体が中止となり、唯一実施されたのは「道の駅物産展」の規模を縮小した、「高校生によるシクラメン等の販売」である。土岐商ショップと恵那農業高校のみの出店で実施され、本校はコロナ禍による売り上げが落ち込んでいる、全国各地の有名物産を仕入れ販売した。少しでも売り上げに貢献でき、地元の人々に喜んで購入していただける物産を生徒自らが選択し、P O P作りからレジ練習を経て無事販売実習を終える事ができた。</p> <p>○地元企業との連携</p> <p>今年は外部との連携もなにかと制限を受けることが多く、思うように進めることができなかったが、新たな取り組みとして「土岐プレミアムアウトレット」様へのイベント等企画提案を行い、地元の陶磁器製造販売業者である「カネコ小兵」様と商品開発を始める事ができた。いずれも年度途中から話を進めての案件であったため、最終段階まで到達することができなかったが次年度の3年生に引継ぎ実施していきたい。</p> <p>▲地域情報提供サイト「T i S」の運営</p> <p>地域情報提供サイト「T i S (TOKISHO info Street)」の運営であるが、昨年度停滞して以降、新たな更新をかけられていない。本校担当者の変更に伴い、サイト構成と内容の見直しをかける予定であったが、年度初めからの予定が大幅に狂ってしまった。有限会社シースリー様と再度調整を図り、次年度に向けての準備を年度内に少しでも進めておきたい。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p>	<p>(1) 「全商検定3種目以上1級合格者100名」を目標にここ数年取り組んでいるが、検定学習に偏重することによる、本来の学習目標である生徒に付けさせたい力の育成が不十分であると感じる。ただ、普通科との差別化という点では、商業高校生の豊富な資格取得は維持したいところでもあり、新学習指導要領の学習内容と意図を良く汲み取り、計画的な指導を行ったうえでの検定取得という位置づけを念頭に置き、各科目における到達目標設定を見直したい。</p> <p>(2) 3年生課題研究では「地域貢献」をテーマに取り組みを続けている。しかし、一部の生徒による調査研究や土岐商ショップを除いて、年間通じて資格取得に時間を費やしているのがほとんどである。学習指導要領において、課題研究の内容の中に「(4)職業資格の取得」があるが、「(1)調査, 研究, 実験」に重きを置くのが本来の姿である。新学習指導要領でも同様の内容であることから、課題研究におけるコースの設定と内容を再考し、最終的には課題研究の年間における成果発表の場を設け、1, 2年生の課題研究に対する内容の理解と、取り組みへの意識付けを行えるようにする必要がある。</p>	

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立土岐商業高等学校 学校番号 48

I 自己評価

1 学校教育目標	教育基本法・学校教育法に基づいて、生徒一人一人の能力を最大限に啓発し、民主的で、文化的、国際的な社会の発展に貢献できる実践力のある産業人の育成に努め、特に次の目標の実現を図る (1) 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立する (2) 正しい職業観を育成するとともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成する (3) 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導をする (4) 生涯にわたって、創意をはたらかせ、進歩向上を図るための基礎的能力を育成する		
2 評価する領域・分野	◇ 保健厚生部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・健康管理・衛生面について、改善管理をしていることは理解していただいている。 ・地震や災害等への対応については、まだまだ対策マニュアルの周知を図る必要があり、今後も理解を深めていただく必要がある。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・自ら健康で安全な社会生活を営む能力と態度を育成する。 ・快適で安全な環境作りに努める中で、公共物や自然を大切にする心豊かな人間性を育てる。また、自分の命を自分で守る危機管理能力を高める。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校医や保護者との連絡を図り、健康管理や衛生面での改善をするため、学校保健委員会や安全衛生委員会の中からご意見をいただく体制を整えている。 ・学年会・他の分掌との連携でボランティア活動を計画する体制をとっている。また、減災力テストに取り組み学年と連携をとっている。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 保健室利用における指導と教育相談室との連携 (2) 学校環境整備と環境美化の実施 (3) 危機管理能力を養う減災力テスト実施	(1) 保健室来室状況の変化と充実度 (2) 学校環境整備や清掃に対する意識向上 (3) 危機管理体制の整備及び意識向上と豊かな人間形成		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 各クラスにおいて保健指導の実施 (2) 環境整備や美化委員会の活性化【ペットボトル回収に重点取組】 (3) 減災力テストの実施による危機管理意識の高揚と「命の教育」	(1) 保健室の利用状況と保健指導 (2) 学校環境整備と清掃意識の向上 (3) 減災力テストの到達度	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課題	○すぐメールを効率よく利用することができ、緊急事態に対応することができた。 ○校内環境の見直しと、ペットボトルの回収を機に、生徒の美化意識の高揚を図ることが進んだ。 ▲保護者への地震や災害等への対応については、まだまだ対策マニュアルの周知を図る必要があり、今後も理解を深めていただく必要がある。 ▲今年度は、コロナ禍により、実施できなかったが、生徒職員による救命講習を来年度以降も実施する。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 (1) 非常変災時の危機管理マニュアルを改善し、職員生徒と保護者に周知徹底を図る。 (2) 救命救急講習の参加については、育友会からの参加も募り、意識を高める。 (3) コロナ感染拡大防止のため、各種手段を駆使し、生徒職員の危機管理意識を高める。			

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	教育基本法・学校教育法に基づいて、生徒一人一人の能力を最大限に啓発し、民主的で、文化的、国際的な社会の発展に貢献できる実践力のある産業人の育成に努め、特に次の目標の実現を図る (1) 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立する (2) 正しい職業観を育成するとともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成する (3) 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導をする (4) 生涯にわたって、創意をはたらかせ、進歩向上を図るための基礎的能力を育成する	
2 評価する領域・分野	◇渉外部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・保護者にとって有益な育友会活動の運営 ・同窓会活動の活性化	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・育友会活動の活性化および学校教育活動への協力・援助 ・同窓会活動の活性化および学校教育活動への協力・援助	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・育友会本部役員会、常任委員会、母親委員会 ・同窓会本部役員会、東京・関西支部総会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 本部役員会、常任委員会による協議 (2) 各種行事の立案および内容の検討 (3) 会報による周知・伝達	(1) 会員の行事等参加状況 (2) 本部役員による反省・協議 (3) 会員の意見、アンケート (4) 同窓会協力金入金状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・教育活動および部活動支援 ・各種育友会行事の開催 ・本部役員会常任委員会、母親委員会の開催 ・会報の発行 ・学校ホームページの活用	① 学校からの要望の実現度 ② 各種行事の実施内容 ③ 会員の興味・関心度	A (B) C D A B (C) D A (B) C D
11 成果・課題	○コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため育友会定期総会を紙上決議として実施し、議案の承認を得ることができた。年度当初より予算執行をスムーズに行うことができた。 ○行事や役員会の開催を中止し、感染症予防に努めた。 ○育友会だよりや同窓会報の発行を行い、会員に向けての情報発信に努めた。 ▲役員会や行事の中止に伴い役員および会員の連携が不足した。このようなコロナ禍における役員会などの開催方法について模索しなくてはならない。 ▲定員減をふまえた役員組織の見直しや役員選出方法の検討が必要である。	
12 来年度に向けての改善方策案 (1) 学校教育活動への協力および支援について学校の要望をふまえ協議する。 (2) 育友会行事の開催方法、内容や役員組織および役員改選方法について役員会にて検討する。 (3) 同窓会行事の内容充実や帰属意識の啓蒙を図るための方策を役員会にて協議する。 (4) 70周年記念継続事業桜植樹計画の立案および実施について学校と協議し進行する。		

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	教育基本法・学校教育法に基づいて、生徒一人一人の能力を最大限に啓発し、民主的で、文化的、国際的な社会の発展に貢献できる実践力のある産業人の育成に努め、特に次の目標の実現を図る (1) 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立する (2) 正しい職業観を育成するとともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成する (3) 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導をする (4) 生涯にわたって、創意をはたらかせ、進歩向上を図るための基礎的能力を育成する		
2 評価する領域・分野	◇図書部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・図書選定については、教員や生徒からリクエストを優先させておりほぼリクエストに応じている。 ・リクエスト以外は司書を中心に図書選定委員会で審議している。 ・新規導入図書については、新着図書案内をカラー印刷で生徒に配布したり背表紙のカラーコピーを図書館入り口に掲示したりして興味関心がもてるように工夫している。 ・読書を通して豊かな心を含めた人間育成をめざし、朝読週間を設けている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・朝読書により、生徒の読書意欲を喚起することに努める。 ・広報活動等により図書館利用を拡大させる。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・新入生オリエンテーション・転任教員オリエンテーションの実施 ・朝読書の実施（2週間を年4回）		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 朝読書 (2) 図書館だよりの発行、新着図書の連絡、イベントの実施	(1) 朝読書回数及び時間、その後の貸し出し冊数 (2) 発行部数、内容		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 朝読書の実施 (2) 新入生オリエンテーションの実施 (3) 図書館だよりの発行・新着図書の連絡 (4) 読書に関する興味・関心	①実施回数・時間 ②内容 ③発行回数、内容 ④貸し出し冊数	総合評価 (A) B C D	
11 成果・課題	○コロナ禍で新入生オリエンテーションを早い時期に実施できなかったが、オリエンテーションを実施することで、図書の貸し出しを行い、蔵書の紹介や貸し出し手続きなどを説明し、図書への興味・関心を高めることができた。オリエンテーションをきっかけに1年生の貸し出し数が増えている。 ○始業前のSHR中に朝読書を行うことにより、朝読書用の本を借りる生徒が増えた。貸し出し時に密になることを避けるために今年度は国語の教科書を使用してもよいとした。 ○貸し出し冊数が増加した。（1年生） ▲朝読書を今年度は2週間単位で実施をしたが、SHRの時間を確保したいという意見や5分間の読書時間は短すぎるなどといった意見が出されたので、実施方法を再考したい。		
12 来年度に向けての改善方策案			
(1) 「朝読書」を朝SHRが始まる前の10分間で年間を通して実施したい。 (2) 新入生オリエンテーションを早い時期に実施し読書に対する興味・関心を高める工夫をしたい。 (3) 朝読書や広報活動の積極的な展開と、コロナ禍に対応した環境づくりを行うことで、図書館利用を拡大していきたい。			